

平成 25 年 奥州市長 年頭のごあいさつ

地域再生元年

～地域自治の確立を目指して～

新年あけましておめでとう
ございます。

東日本大震災から2回目の
正月を迎えました。震災後、
道水路や農地などの基盤の復
旧は進んできましたが、今な
お住宅再建ができず不自由な
生活を余儀なくされている
方々にあらためてお見舞い申
し上げます。市としましても
日常の生活を取り戻せるよう
しっかりと支援をしてまいり
ます。また、福島第一原子力
発電所事故による放射能問題
に対しても放射線量の測定や
除染作業、農畜産物に対する
被害対策に全力で取り組み、
奥州市の元気を取り戻したい
と思います。

さて、私が市長に就任して
3年が経過しようとしており
ます。この間、私は常に民間
感覚と市民目線を大切に
市政運営に携わってまいり
ました。そしてそれは地方自治
の原点である「市政の主人公
は市民である」という理念の
もと、市長としての責任と覚
悟をもって全身全霊で市政の
課題に立ち向かってきた毎日
でもありました。

私は、いかなる課題であ
ろうとも、市民の皆様一人一人
には、それを突破する計り知
れない底力があると信じてい
ます。だからこそ、これから
もスピード感をもって、限ら
れた財源と資源を選択して、
より大きな効果を得る「集中」
を念頭に、問題解決までたじ
ろぐことなく「挑戦」してい
く姿勢を貫き、市民の皆様と
共に歩む「協働のまちづくり」
を基本として市政を推進して
まいります。

以下、本年の市政運営に当
たって所信の一端を述べさせ
ていただきます。

「協働のまちづくりで 地域を元気に」

第一は、ことし3年目を迎
えた「協働のまちづくり」を
定着させていきます。地域課
題を自ら解決していくための
「協働のまちづくり交付金制
度」、地域自治の拠点となる
「公民館の地区センター一元
化」に続き、ことしは、行政
職員の意識改革と地区セン
ター職員の能力開発、地区振
興会等の持続的発展のための

人材育成など、協働の担い手
となるべき「人づくり」に力
を入れてまいります。

そのためには、行政と住民
あるいは住民同士が顔の見え
る基本的なコミュニティの単
位となる地区振興会活動の活
性化が鍵となります。

郷土の偉人後藤新平先生の

「国民一人一人が元気でなけ
れば国家も元気になれない」
という言葉に倣うなら、市と
いう自治体の細胞となるべき

一人一人の市民の暮らしが元
気で、一つ一つの振興会組織
が活力あふれるいきいきとし
た活動を展開することなくし
ては、奥州市としての健全な



発展はあり得ないからであります。

「結い」の精神が根付いている当市の風土にあって、市民同士が助け合う、市民と行政が役割分担しながら助け合う、そんな地域自治を再生していく上でも、市政発展の鍵は協働のまちづくりにあるという信念をもって取り組みを強めてまいります。

【将来世代に先送りしない 財政基盤を】

第二は、行政の足元の財政基盤をより確かなものとしていくことです。

昨年は、多くの市民の皆様のご理解をいただきながら、岩手競馬の存続、総合水沢病院の経営再建、土地開発公社の債務整理という長年の奥州市の財政課題に解決の道筋をつけることができた1年であったと思います。

しかしながら、歳入については地方交付税の減少、人口減少や景気の低迷による市税の減少など好転材料のない状況が続いており、歳入に見合う歳出の削減は今後も避けて通ることができないのが実態

です。

真に必要な行政サービスをしっかりと維持継続していくためにも、行財政改革のスピードを緩めることはできません。

将来世代に負担を押し付けない責任ある者の務めとして、合併によって膨らんだ行政組織を一つの自治体としての適正な規模へスリム化する「市役所のダウンサイジング」を進め、簡素にして効率的な組織を構築し事務事業の見直しを徹底することで、総合計画後期計画で掲げた「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち奥州市」を実現してまいります。

【ILC誘致へ全力で】

第三は、ことし、国内候補地が決定するインターナショナル・リニア・コライダー（ILC）の北上山地への誘致です。

世界にたった一つ作る大型加速器を用いた素粒子物理学の研究施設であるILCは、最先端技術の結晶であり裾野の広い多くの産業の集積が見込まれています。

また、当市の未来を築く子どもたちにとって、Z項を発見した木村博士ゆかりの国立天文台と大型加速器を使った素粒子物理学の研究施設が身近に存在することは大きな希望と意欲を与えることとなります。

奥州市としてもILC立地を核として子どもたちの科学する心を育み、市民挙げて多文化共生のまちづくりを進めていく重要な契機となります。そのため、ぜひとも、このILC建設を我が国の国家プロジェクトとして決定していただくこと。その上で、「東日本大震災からの復興の象徴

としてILCを東北へ」という機運を盛り上げていく取り組みに全力を尽くしてまいります。

変革の道のはいまだ半ばにあり、行財政改革の歩みを止めることはできません。

時代の変化に柔軟に対応するための変革を求めることは、未来を創り出す力を生み出します。

私は、地域再生元年のことし、奥州市合併の原点に立ち返り、市民の皆様にお約束した「変わろう奥州、変えよう奥州」の変革の灯を大きくして「住んでよかった。しあわせを実感できる奥州市」実現のために先頭にたって奮闘することをお誓い申し上げます。

結びに、市民皆様にとって平成25年が、幸多き一年でありますように心からお祈り申し上げます。

奥州市長
小沢昌記

